

災害と恩恵をもたらす木曾御嶽山

<名古屋大学 竹内 誠・地質調査所 中野 俊>



木曾の御嶽山(御岳山)、最近ここでは、1979年有史以来初めての噴火、1984年長野県西部地震に伴う山くずれ、という2つの大きな事件が起こりましたが、まだ皆さんの記憶の片隅に残っているでしょうか、しかし、そこに生活する人にとっては、御嶽山は災害をもたらすだけではなく、大いなる恩恵を与えてくれています。この地域の地質図は1988年発行の5万分の1地質図幅「御嶽山」、そして1998年発行の「木曾福島」(本文67ページ参照)で完成しました。

1. 御嶽火山と美濃帯の堆積岩からなる木曾福島図幅地域の山々、木曾福島地域東方の中央アルプス上空から望む、御嶽火山の手前の定高性のある山々は美濃帯の堆積岩類からなり、尾根上には地蔵峠火山岩類が分布する、御嶽火山山麓の斜面には3つのスキー場がみえる。



2. 御嶽火山山頂部と1984年御嶽くずれの崩落崖。
1984年長野県西部地震で、伝上川上流部の尾根が大きく崩壊した。その跡が今も大きく崩壊地として残っている。山頂部中央やや右が最高峰の剣ヶ峰(3,067m)、左奥が継母岳(2,867m)、右手前が登山道の始まりの田の原。